

## 通所施設の利用者の口腔内に差し歯が刺さった

—口腔内のケガの処置はどこでどうすれば？

## ■受診までに長時間かかってしまった

知的障害者通所施設の利用者Dさんは、昼食をとっている際にひどくむせていました。少し様子がおかしいので、職員が洗面台に連れて行き口腔内を調べると、ブリッジの差し歯が上顎の中央に突き刺さっていました。すぐに看護師が手当をしようとしたのですが、ブリッジの金具の湾曲した部分が食い込んでいて簡単には抜けません。利用者をすぐに近所の歯科医で受診させると、歯科医は「無理に外すのは危険。切開して取らなくてはならず、口腔外科の医師でないと処置はできない」と言い、大学病院の医師に紹介状を書いてくれました。その後、大学病院で受診し、口腔外科の医師が切開して差し歯を取り出し、無事帰宅いただきました。しかし、事故が起きてから受診し処置するまでに3時間も時間を要したため、利用者は疲労で寝込んでしまいました。支援員は「予測できない事故だった」と母親に事故の経緯について説明して理解を得ましたが、受診などの対応に2時間もかかったことについて不満をもらしました。

## 119番にアドバイスを求めても良い

## ■施設に責任は無いが・・・

口腔外科の医師によれば、ブリッジの差し歯の口腔内に刺さる事故は珍しく、食事中に外れても刺さる前に本人が気付くため、事故には至らないそうです。ただし、くしゃみやひどい咳などが出た時に弾みで差し歯が外れ勢いで刺さってしまうことがあり、今回のケースは咳こみが原因ではないかと推測されました。

このような予測不可能な事故を防ぐことは、施設では困難です。しかし、今回のケースでは受診に2時間もかかり、利用者にも辛い思いをさせたことは反省点になりました。施設の看護師は、口腔内に差し歯が刺さったような場合、重篤性は低く自主受診が適当と判断して救急車は要請しません。しかし、受診先が分からず対応が遅れることは避けなければなりません。しかし、近隣の口腔外科とお付き合いがあるサービスはなかなかありません。どのように対応したら良いのでしょうか？



## ■炭酸ガスレーザー治療ができる歯科医

口腔内の深い傷は安易な処置により重篤化し、下手をすると経管栄養になることもありますから、注意が必要です。このような傷には炭酸ガスレーザー治療が有効で、処置も早く利用者の負担も少なく術後の経過も良いようです。最近では、この炭酸ガスレーザー治療ができる歯科医が増えてきているので、近所の歯科医を検索してみると良いでしょう。

また、重篤性の無い場合でも119番をして処置のアドバイスを受けることも有効です。救急車を要請するのではなく、ケガの処置のアドバイスを求めるのです。本事例であれば看護師が119番に「私は障害者施設の看護師ですが、利用者が差し歯を口腔内に刺してしまったので、処置の方法や口腔外科を教えてください」と言えば、丁寧なアドバイスや受診先を教えてください。119番は医療者に対しては、適切な対処の方法のアドバイスや、場合によっては専門医に連絡し受診の手配もしてくれるそうです。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
マーケット開発部 市場開発室  
担当 堀江・窪田 TEL 03-5789-6456

担当課支社・代理店